



2018年8月8日

各位

会社名 株式会社 資生堂
 代表者名 代表取締役 執行役員社長 兼 CEO
 魚谷 雅彦
 (コード番号 4911 東証第1部)
 問合せ先 IR 部長 北川 晴元
 (TEL. 03-3572-5111)

**通期業績予想の修正ならびに剰余金の配当(中間配当)および
 期末配当予想の修正(増配)に関するお知らせ**

当社は、最近の業績動向を踏まえ、2018年3月5日に公表しました業績予想を下記のとおり修正しましたので、お知らせいたします。

また、本日開催の取締役会において、下記のとおり2018年6月30日を基準日とする剰余金の配当(中間配当)を行うことについて決議するとともに、2018年12月期の期末配当予想についても下記のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

記

1. 2018年12月期 通期連結業績予想数値の修正(2018年1月1日~2018年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 1,033,000	百万円 90,000	百万円 90,000	百万円 54,000	円 銭 135.15
今回発表予想(B)	1,090,000	110,000	110,000	67,000	167.72
増減額(B-A)	57,000	20,000	20,000	13,000	
増減率(%)	5.5	22.2	22.2	24.1	
(ご参考)前期実績 (2017年12月期)	1,005,062	80,437	80,327	22,749	56.95

2. 通期業績予想修正の理由

当期は、中長期戦略 VISION 2020 の第2フェーズである新3カ年計画の初年度であり、「成長加速の新戦略」の実行に取り組んでいます。売上の成長加速をめざし、プレステージブランド事業を軸に積極的なマーケティング投資を継続しながら、デジタル化の加速や新事業開発、さらにイノベーションによる新価値創造を進めています。また、すべての価値を生み出す人材こそが成長の源泉と考え、人材への投資を積極的に行っています。

当第2四半期連結累計期間の売上高は、事業・ブランドの選択と集中を進め、主力ブランドへ積極的に投資を強化したことなどから、円換算後で、前年比12.8%増の5,326億円となりました。

積極的にマーケティング投資を強化している中、収益性の高いプレステージブランド等の好調により、日本、

中国、トラベルリテールなどが利益拡大に大きく貢献し、営業利益は前年比 105.1%増の 711 億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年比 153.5%増の 477 億円となりました。

これらの好調な実績を受けて、上記のとおり通期の業績予想を修正することといたしました。

なお、国内生産品への力強い需要に対して商品供給に課題がある中、今後はさらなる生産・供給力の増強に取り組むことにより、プレステージブランドを中心に売上のさらなる拡大、原価率の改善、マーケティング投資効率の向上につなげます。これにより、上記の修正後の予想からさらに営業利益ベースで 100 億円から 150 億円の増益をめざします。

3. 2018 年 12 月期 中間配当の内容

	決定額	直近の配当予想 (2018 年 3 月 5 日公表)	前期実績 (2017 年 12 月期)
基準日	2018 年 6 月 30 日	同左	2017 年 6 月 30 日
1 株当たり配当金	20 円	15 円	12 円 50 銭
配当金総額	7,986 百万円	-	4,993 百万円
効力発生日	2018 年 9 月 4 日	-	2017 年 9 月 5 日
配当原資	利益剰余金	-	利益剰余金

4. 2018 年 12 月期 期末配当予想の修正の内容

	1 株当たりの配当金		
	第 2 四半期末	期末	合計
前回予想 (2018 年 3 月 5 日公表)	15 円	15 円	30 円
今回修正予想	-	20 円	40 円
当期実績	20 円	-	-
前期実績 (2017 年 12 月期)	12 円 50 銭	15 円	27 円 50 銭

5. 中間配当および期末配当予想修正の理由

当社は、株主のみなさまへの利益還元について、直接的な利益還元と中長期的な株価上昇による「株式トータルリターンの実現」をめざしています。この考え方に基づき、持続的な成長のための戦略投資を最優先とし、企業価値の最大化をめざす一方で、資本コストを意識しながら投下資本効率を高め、中長期的に配当の増加と株価上昇につなげていくことを基本方針としています。

配当金の決定にあたっては、連結業績、フリーキャッシュ・フローの状況を重視し、資本政策を反映する指標の一つとして自己資本配当率(DOE)2.5%以上を目安とした長期安定的かつ継続的な還元拡充を実現します。

本日公表した第 2 四半期連結業績の状況および通期連結業績予想の上方修正のとおり、中長期戦略 VISION 2020 における当初計画の 2020 年営業利益 1,000 億円、営業利益率 10%を 2 年前倒しで達成できる見込みとなったことから、当期の中間配当金については、従来予想の 15 円から 5 円増額し、20 円といたします。また、期末配当金予想についても、5 円増額し 20 円といたします。この結果、1 株当たりの年間配当金は前年より 12 円 50 銭増額の 40 円となり、VISION 2020 への取り組み開始時から比べて、2 倍の配当額となる予定です。

(注)上記の業績予想および配当予想は、当社が現在入手している情報に基づき作成したものであり、実際の業績や配当額は様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上